

茨城県生協連ニュース 臨時号 No.17

茨城県豪雨災害復興関連情報 がんばろう！

2015 年 9 月 26 日 発行: 茨城県生活協同組合連合会 水戸市梅香 1-5-5JA 会館分館 5F 電話 029(226)8487

水海道サテライト(常総市ボランティアセンターの出張所です)いばらきコープ佐藤さんの投稿を掲載します。

<9/24 の活動報告です>



【ほかの小学校で学校再開した大生（おおの）小学校
大変な被害を受けた地域にある小学校です。
庭には子供の姿がみえません】

シルバーウィーク明けの平日。曇天夕方より降雨。
引き続き水海道サテライトに常駐。シルバーウィーク
の特別体制を乗り越えて、運営スタッフも大幅に減り
ました。県内各市町村社会福祉協議会からの応援人数
が減り、朝の全体ミーティングもちょっとゆとりがな
いような。県内社協が減り、逆に他県社協の応援部隊
が目立ちます。運営スタッフは、おおよそ 80 名で、社
社協関係 50 人、NPO 関係 20 人、生協他 10 名ほどで
でしょうか。水海道サテライトは、関東鉄道常総線が、
水海道駅まで通常ダイヤでの運行となり、水海道駅ま
で電車で来るボランティアが一定数予想され、サテラ
イトのある市民のひろばまで徒歩できてもらい、現地
で受け付ける体制を構築します。

この日(9/24)、水海道サテライトのボランティアの活動は、43 件 184 人、ボランティアセンター全体では 776 人
149 件となりました。シルバーウィークに比較すると人数も件数も当然のごとく大幅減。休祝日と平日とではこんな
にも違うのかと実感しました。この日の被災者支援のボランティア活動も掃除や片付けが中心ですが、常総市による消毒
用の石灰の配布が進み、庭や玄関、床下への石灰の配布の依頼が目立ちます。準備してある資材からはスコップの使用
は大きく減ったのが特徴です。ボランティアの訪問先は、新規と継続がおおよそ半分ずつです。高齢者の自宅は、古く
大きな家が多く、1 度の活動だけではとても終わりません。継続して複数回訪問することがかなりあります。この日も、
高齢者の自宅では、1 階の家財やゴミ出しがようやくはじまるところもあります。災害後に体調を崩して、入院してい
た方、近くの親戚のところに一時避難していて、ようやく自宅に戻られた方などから支援の依頼があります。浸水後約
2 週間が経過して、連休中は天候も良かったため、被災した濡れた衣類や家具などがカビるなどして、においがするな
ど大変です。

常総市災害ボランティアセンターでは、浸水被害を受けたご家庭への支援を中心に活動していますが、鬼怒川上流地
区の大生（おおの）地区など、10 日経過してようやく水が引いて、作業に入れるようになった地域もあります。水が
引いたところから順に支援に入ります。その地区の区長さんと連携して、1 件 1 件対応します。ボランティアセンター
では地区リーダーを配置して、こうした地域を重点地区として支援していますが、水海道地区や石下地区の市街地に比
べ、まだまだ遅れています。また、避難所には、まだ約 2 千人の被災者が避難しており、これから自宅によりやく戻ら
れる方もいます。全体として支援が進んでいるというよりも、まだまだこれからという実感です。

<お問い合わせ> 茨城県生活協同組合連合会(担当 古山・鈴木・原) Tel 029-226-8487 Fax 029-224-1842

Mail ibkenren@ibaraki-kenren.coop

以上